

# 等身大のワタシが社会を変える

## 「ナナメの関係」の対話から将来の指針を見つける

高校生よりも少し年上の大学生や専門学生らが高校を訪れ、語り合いながら生徒自身の興味や夢を引き出す。NPOカタリバが高校で実践しているキャリア学習プログラムは、親や先生、友達とは違う「ナナメの関係」で「コミュニケーションを図るのが特徴だ。代表理事の今村久美さんが大学在学中に、学外活動で知り合った三箇山優花さんと、大学生生活を振り返って生まれた発想が基になっている。

「高校生の時は大学に合格することがゴールだったので、大学入学後に自分で色々なことを選択しなければいけない環境に置かれて困りました。『私は何をすればいいんだっけ』と……。高校生の頃に悩みながらも努力している年の近い先輩に出会えていたら、こんなふうになりたいと憧れを持ち、主体的に行動できたのではないかと思っただけです」

カタリバのプログラムは学校と連携し、「総合

# 大学生らと語り合う授業を作り 高校生の主体性を引き出す

NPOカタリバ 代表理事 今村 久美さん

的な学習の時間」など一つの学年が集まる授業で行われる。キャストと呼ばれる大学生らは事前研修を受け、生徒5人ほどに1人の割合で語り合う。「大切にしているのは生徒の

気持ちを引き出すこと。高校生と価値感の近いキャストが、数年前の自分に投げかけた話をするので生徒たちの心に響きやすいのが強み。生徒の指針となるものを一緒に考えます。最後は目標を設定してカードに

記入する。なりたいたいの姿が見えてくると、日常の学習も目標を持つて取り組めるようになる。

一方で、東日本大震災で被災した東北の子どものための学習支援にも力を注ぐ。7月から宮城県女川町の小学校を借りて、夜間に毎日無料で学べる「女川向学館」を開いている。「子どもたちが普通に勉強できるように塾講師だった人をカタリバが雇用し、小学生から高校生に教えてい

ます。町の多くが被害を受け苦しい思いをした子どもたちが、将来この地でイノベーション(新しい価値の創造)を起こせるように安心して学べる環境を作っていきたいです」



キャストと高校生が本音で語り合うカタリバの授業

### 名前

いまむら・くみ(1979年岐阜県生まれ)

### 趣味

ジョギング、サイクリング

### 幸せを感じる時

大体いつも幸せ(笑)。とくに海を見ながら自転車で走る時。

### 人の成長に大切だと思うこと

憧れる人に出会う。同士を持つ

### Person's career

慶応義塾大学環境情報学部卒業。同大学在学中の2001年に三箇山優花さんと任意団体カタリバを発足。06年NPO法人格を取得。09年内閣府主催「女性のチャレンジ賞」を受賞。

### メッセージ

カタリバに限らず、ご自分の思いを代弁するような活動をしている団体に寄付することは、社会参加する一つの方法だと思います。



## ★ NPOカタリバ

高校で行うカタリバのキャリア学習プログラムは、東京近郊を中心に今年約80校で実施。他団体が主催して各地で行うカタリバの授業の支援も行う。これまでに参加したキャストは延べ約4,500人で、話をする大学生らも、キャリアについて考え直す良い機会になっている。企業や大学向けのプログラムもある。また、「女川向学館」の運営など、東日本大震災で被災した子どもたちを長期的に支援するための寄付を呼び掛けている。

東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ203  
Tel.03-5327-5667(月～金、10～19時)  
<http://www.katariba.net/>